

第一学期終業式式辞

令和7年7月18日

※ あっという間の一学期・・・情理を尽くし、何か始めることができましたか

六月の下旬には梅雨が終わり、ずっと真夏の中で過ごしている感じです。たまに降った雨で野球が二回も伸びてしまい、応援の皆さんには迷惑をかけていますが、野球部が明後日から気持ちの良い試合をしてくれると信じています。心から健闘を祈ります。

「始めたら始まり」という言葉をよく使いますが、何か始めることができましたか。今年の重点努力目標は、「情理を尽くす 学び合い 高め合い 築き合い 一養正が丘から未来を拓く」ですが、相手のことを考えながら尊重しながら道理にかなうという情理を尽くす行動ができましたか。総勢77名が出場した県総体は、勝ち進む部活動が多く、男子バレーボール部は四国大会も素晴らしい試合でした。応援に来られていた養正会の御高齢の方も絶賛でした。一部、3年生が次の大会に向けてまだ部活動を続けていますが、1・2年生の新チームになったところも多いと思います。次の試合、大会に向けて夏休み練習に励んでください。

※ 還暦とは原点回帰・・・皆さんにとっての原点に目を向ける時間を

私は、7月に60歳「還暦」を迎えました。「還暦」とは、60歳干支が一巡して、生まれたときと同じ暦に還る年齢のことです。つまり、「人生の原点に立ち返る年」といわれています。

私は、教職という仕事を通じて、たくさん生徒や保護者、そして同僚の先生方と出会い、ともに学び、歩んできました。うまくいかないこと、迷ったこと、後悔したこともたくさんあります。今年度で校長引退となりますが、原点に立ち返る年と言われると、いつの間にか見えなくなっていたもの、忘れかけていた思い、あのときが原点だったのではないかという場面がふと浮かんできます。

皆さんにとっての「原点」は何でしょうか。小さなころに描いた夢。初めて「頑張ろう」と思ったあの日。誰かに言われて嬉しかった言葉。高校生活の「最後の夏」を迎える三年生にとっても、そしてまだ高校生活の途中にある一、二年生にとっても、今一度「自分の原点」に目を向けることには大きな意味があります。

保険会社のCMで、バナナマンの設楽統さんや日村勇紀さんが高校生の問いに答える場面、知っていますか。高校生がこう問いかけます。

「青春って終わるんですか。これって青春なんですか。夢って最後はどうなりますか。大人になったら思い出は増えますか、消えますか。本当の大人なんているんですか。」

「僕も大人って呼ばれるけど、答えなんて全然わからない。人生100年時代っていうなら、やっとな後半戦の始まりです。僕もまだ通過点で、過渡期で、生きてる真っ最中だから。わかった風に生きるのも、なんか嘘っぽいし、答え合わせはまだ早い。でも、この“わからない感じ”をね、長く楽しもうって思ってます。」

私たちは、年齢に関係なく実は誰もが不安や迷いを抱えながら、通過点を歩いているだけなのかもしれません。わからないことがあるからこそ、探したり、考えたり、誰かと語り合ったりできる。その連続こそが人生であり、青春の本質ではないでしょうか。

だからこそ皆さんも、「今の自分にしかできない問いかけ」を大切にしてください。夢に近付こうとすること、うまく言葉にならない不安をもつこと、それ自体がかけがえのない青春の一部です。

さあ、夏休みです。時間の使い方は、皆さん次第です。課題に取り組み、部活動に励み、新しいことに挑戦する中で、ふと立ち止まって、「自分の原点」に静かに目を向ける時間もまた、大切にしてみてください。

二学期、皆さんがまた一步成長した姿で戻ってくるのを楽しみにしています。

どうか健康に気をつけて、実りある夏休みを過ごしてください。